

平成28年度 学校評価書

平成29年2月10日

- 1 学校教育目標
- 2 経営の基本方針

思いやりがあり、しっかり学ぶ児童の育成
 確かな教育活動のもとで確かな学力の定着を図るとともに、保護者との信頼の絆を強め安全安心な学校づくりを推進する。

評価領域	評価項目	評価の観点	評価			考察及び改善方策 ○成果 ●課題	学校関係者評価委員の評価
			教職員	児童	保護者		
生徒指導	いじめ・不登校等への対応	いじめや不登校の兆しを早期に把握するとともに、児童や保護者の思いに寄り添い、適切な相談や援助・指導に努めている。	3.1	3.5	3.4	○ 「どの子にもいじめは起こり得る」また、「学校はよりよい人間関係づくりを学ぶ場」という視点で子どもを見つめ、お互いにかかわらせておりいじめの事案はあったものの解決に至っている。 ● 保護者の「いじめが起きたら事実を知らせて」の声がある。いじめの事案のみではなく、学校のいじめ防止の基本方針や体制、解決のための情報を提供し、いじめ防止への協力体制を更に高めておく必要がある。 ○ 「基本的な生活習慣は、まず家庭がすべき」という保護者の声がある。これに応えるためにも、家庭教育についての啓発を推進したい。	<ul style="list-style-type: none"> いじめの未解決が、中学校での不登校やPTSDにつながるようなするためにも、着実な対応が必要である。 小さなトラブルを、人間関係づくりを学ぶ好機として子ども同士をしっかりとかわらせることも必要である。
	基本的な生活習慣の定着	登下校時の挨拶や会釈、廊下の右側歩行、身の回りの整頓など、基本的な生活習慣が身に付くよう指導に取り組んでいる。	3.3	3.5	3.2		
	生徒指導体制の整備	校外のさまざまな生徒指導上の課題に対応するため、学年及び学校全体での連携・協力体制の整備を図っている。	3.5		3.2		
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	評価を生かした指導の充実を図ることにより、基礎的・基本的な技能や知識の定着を図っている。	3.0	3.6	3.0	○ 授業研究の一つとして、児童自身が学習を振り返る機会の確保に努めている。これにより、児童自らが授業の達成感を味わったり次の時間への課題意識を持ったりしており、それが学習意欲の高まりとなっている。 ● 「自主学習の内容についてももう少しアドバイスがほしい。また、学級によって宿題の量に差がある」という保護者の声がある。家庭学習については、更に教職員の共通理解や児童・保護者への説明を行う必要がある。 ○ ペア学習、グループ学習など、児童同士の伝え合う場を授業に積極的に取り入れており、児童の対話力は向上している。 ● 個に応じて基礎・基本の定着を図るため、昼休み等に算数教室を行っているが十分な時間がとれなかった。今後は、朝の「まなびの時間」の充実により改善を図っていく。	<ul style="list-style-type: none"> 大規模校においては、学力の二極化への対応が大変だと思うが、学力が定着していない児童の学習意欲を高めることが重要である。 それぞれの学校の学力向上が、ひいては東温市全体の人材育成につながることを意識して、教育活動に取り組んでほしい。
	家庭教育の充実	学年の発達段階に応じた家庭学習が行えるよう、学習の内容や方法、時間などについて具体的に指導するなど、学習習慣の定着に努めている。	3.1	3.4	3.1		
	伝え合う力の育成	授業において練り合い・高め合いの場を効果的に設定することにより、自分の考えを持ち、他者と豊かにかかわり合い、伝え合う力の育成に努めている。	2.8	3.5	2.8		
	個に応じた指導の充実	「学びの時間」や「算数教室」の充実を図り、児童が主体的に学ぶ環境を整えるよう努めている。	3.0	3.5	3.1		
豊かな心、健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	道徳の時間はもとより、特別活動ほかの全教育活動を通して、人間関係を深めたり、自己の生き方について考えたりする機会を保障するなど、道徳教育の充実を図っている。	2.7	3.4	3.2	○ 時数確保が厳しい中、体験的な活動や地域学習などの時間を工夫して確保し、道徳教育の充実を図ってきた。教師としては道徳的な実践意欲の育成には課題意識はあるものの、児童や保護者は道徳教育の成果があったと評価している。 ● 仲間づくりや望ましい集団づくりについては、児童や保護者は十分な成果を感じている。しかし、今後は行事の精選が迫られる中、特別活動を中心に内容の工夫・改善や道徳教育との連携が更に必要となる。 ● 保護者からは、豊かな心や健やかな体を育てることについて学校への要望はないものの、家庭によっては子どもが様々な困難を乗り越えるための健康や体力を育てる意識が低い。PTA家庭教育学級の内容を工夫するなど、啓発の機会をつくる必要がある。 ○ 栄養教諭が授業に入り、食に関する指導を行っている。栄養に関する話題を中心に食の大切さや命を守ることの大切さについて児童に考えさせる中で、自他の命を尊重する意識も高まっている。	<ul style="list-style-type: none"> 児童の自己評価が高く、自己肯定感が見られるのは取組の成果と思われる。成果のある取組を継続するとともに、保護者にも積極的に知らせて家庭でも取り組んでもらうなど、家庭の教育力も高めていくとよい。 道徳教育の内容（価値項目）についても家庭に知らせ、学校と家庭が足並みをそろえて取り組むとよい。
	仲間づくり・集団づくり	かわり合いを重視し、互いに交流を深める場を充実させることにより、認め合い、励まし合い、高め合う仲間づくりに努めている。	3.2	3.6	3.3		
	健康づくり	「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣化や外で元気に遊ぶことを奨励すること、歯磨きやフッ素洗口を徹底させることで、児童の健康と体力の保持増進に努めている。	3.2	3.5	2.9		
	踏ん張る力の育成	活動のねらいを明確にし、自分の目当てを持たせ、最後まで粘り強くやり通す態度の育成に努めている。	3.1	3.4	2.8		
	命の教育	総合的な学習の時間や道徳、特別活動、教科の学習で、命について考える学習の充実を図り、自尊感情を高めるとともに、自他の生命を大切にすることを育んでいる。	2.9	3.8	3.4		
	食に関する指導の充実	栄養教諭と学級担任が協力し合って、日々の給食指導を充実させ、「食」についての学習に取り組む、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けさせるように努めている。	3.0	3.7	3.0		
特別支援教育	特別支援教育の充実	一人一人の課題把握に努め、指導方法の工夫・改善により、個に応じた指導の充実を図っている。	3.1	3.5	3.1	● 通級指導教室について児童と保護者のニーズが高まっている。通常の学級での支援を充実しつつ、行政との連携も図っていく必要がある。	● 全ての学校に通級指導教室ができることを願っている。
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	安全に集団登下校をさせることと、自転車による飛び出しを防ぐことを重点に、交通事故の防止に向けた安全指導の充実を図っている。	3.3	3.8	3.2	○ 行政との連携により通学路等の改善が着実に進んでおり、児童自身が安全を実感している。今後は、見守り隊等の充実を図っていきたい。 ○ 本年度は本校を会場に地域総合防災訓練が行われ、児童や保護者の防災意識がより一層高まった。今回の取組のみに終わらせることなく、何らかの形で継承できるよう計画を立てたい。 ● 保護者から施設・設備の安全について要望はないものの、安全教育や防災教育を推進し、災害に積極的に備える意識を高める必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 地域防災訓練は有効であった。今後も災害時の施設利用や鍵の管理など、具体的内容について協議しながら地域と意識をそろえることが大切である。 施設の充実については、行政への要望を継続してほしい。
	防災教育の充実	教職員研修や避難訓練、学級活動での指導等による防災教育を進め、災害時に自ら判断し行動できる児童の育成を図っている。	2.9	3.6	3.3		
	施設・設備の安全管理	安全点検等による潜在危険箇所の早期発見と除去に努めている。	3.1	3.6	3.2		
家庭・地域との連携	開かれた学校づくり	学習のねらいに即して、地域の人材や専門家、協力機関等を積極的に活用し、広がりや深まりのある学びを目指した指導の充実を図っている。	3.0		3.2	○ ホームページや各種の便りによる情報提供に対し、保護者の喜びと期待の声がある。今後も積極的に学校の取組の状況や成果を知らせ、保護者や地域の学校への関心を更に高めたい。 ● 読み聞かせや学習支援ボランティアを募るなど、更に保護者や地域人材の協力を得ながら、学力向上のためによりよい教育活動を推進したい。	<ul style="list-style-type: none"> 参観日に参加させてもらってよかった。老人会や婦人会など、各種団体を通じて案内し、多くの人に学校に足を運んでもらうのもよいのではないかと。
	情報の共有化	児童の様子について積極的に家庭と連絡を取り合ったり、学校の教育方針や教育活動等についてホームページや学校だより等を活用して情報の共有化に努めている。	3.5	3.2	3.3		
特色ある学校づくり	ふるさと学習の推進	学年の発達段階に応じて、地域の人・自然・文化を生かした「よしいの」ふるさと学習の推進に努めている。	2.9	3.2	3.2	○ どの学年でも地域の人材、素材を取り入れた教育活動を行っている。道徳教育や防災教育等とのより一層の連携を図っていきたい。 ○ 異年齢集団に期待する保護者の声がある。今後も意図的に異年齢で活動する機会をつくり、様々な立場の相手とかわる力を育てたい。	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育活動を通じて、児童だけでなく保護者も地域について理解することを期待している。 異年齢による活動は、大いに必要性を感じる。
	異年齢集団活動の充実	異年齢集団「なかよし班」活動の充実を図り、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童やリーダーシップの育成に努めている。	3.1	3.5	3.4		
施設・設備の充実	教育機器の有効活用	特別教室などの各施設や、さまざまな視聴覚教材及び教育機器などの教材・教具を活用して指導の充実を図っている。	2.7	3.7	3.1	○ 施設・設備に関し、保護者の要望はないものの、教材備品の有効活用など、教育効果を高めるための活用に努めなければならない。 ○ タブレット環境の充実など、最新の教育環境の整備について、行政と連携しながら進めていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板やタブレットなど、教育機器の進歩は目覚ましいが、効果と弊害の両面を把握して取り組んでほしい。
	学習・生活環境充実への取組	校内・教室内における作品の掲示や展示を工夫したり、学習用具の整理整頓を図ったりすることにより、児童一人一人の思いや努力を大切にしたい潤いのある環境づくりに努めている。	3.1	3.5	3.3		